

PISA 型学力の育成を図った「総合的な学習の時間」

## 広島県三次市立塩町中学校

広島県三次市大田幸町 541 番地

電話番号：0824-66-1008

E-mail：shiomachi-j@city.miyoshi.hiroshima.jp HP アドレス：http://www.shiomachi-j.hiroshima-c.ed.jp

### 学校や地域に関する情報

#### (1) 学校規模

生徒数 170 名 教職員数 20 名

学級数 8 学級

#### (2) 学校の教育活動の特色

知識・技能を習得、活用し、探究する力をはぐくむ教育実践を全教職員の協同体制で行っている。とりわけ、「PISA 型学力の育成」を目指した授業研究と「『調査・研究』学習」の単元に代表される総合的な学習の時間との関連を図りながら実践を進めている。

#### (3) 地域の特色

本校区は、中国山地広島県北部の三次盆地に位置し、山陰と山陽の交通路として栄え、豊富な水をたたえる江の川や古墳群、恵まれた自然や歴史的文化財に囲まれた農村地域である。保護者・地域住民の教育に対する熱意も高く、学校教育に大変協力的である。

### 総合的な学習の時間の全体計画

#### 1. 目標

生徒は素直な反面、横断的な課題を解決していくことや人間関係を築くことなどがさらに求められる。また、教育資源としての「ひと・もの・こと」を豊富に包有する地域の中で学ぶ姿勢を強くもつ生徒を育てていくことを目指している。期待する姿として、生徒主体による探究活動を通し、これからの社会において出会うであろう様々な課題に対し、仲間とともに創造的、

協同的に解決しようとする意志や実行力を身に付けさせたいと考え目標を設定した。

#### 2. 育てようとする資質や能力及び態度

育てようとする資質・能力及び態度として、9能力を設定している。学習の節目において、この9能力の視点で学習したことの価値を振り返り、学習意欲や生きる力をはぐくもうとしている。9能力は、三つの視点「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会とのかかわりに関すること」にまとめている。

#### 3. 内容

目標や育てようとする資質・能力及び態度の実現を目指すために、地域の実態やこれまでの実践を足掛かりにして、自分たちで課題を設定し研究方法を考え、まとめ・発表していく「調査・研究」学習と、学ぶこと働くことを追究していく「自分探しの旅」の単元を設定している。

また、「総合的な学習の時間等での学習が自分の将来に役立つ」と、生徒自身がその価値を認識することが大切ととらえ、学習の振り返りの時間である「塩中タイム」を設定している。

#### 4. その他の特色

基礎的・基本的な知識や技能の習得と活用は教科で、教科を越えた横断的な内容の探究は総合的な学習の時間で行うという分担とつながりの授業研究を進めている。

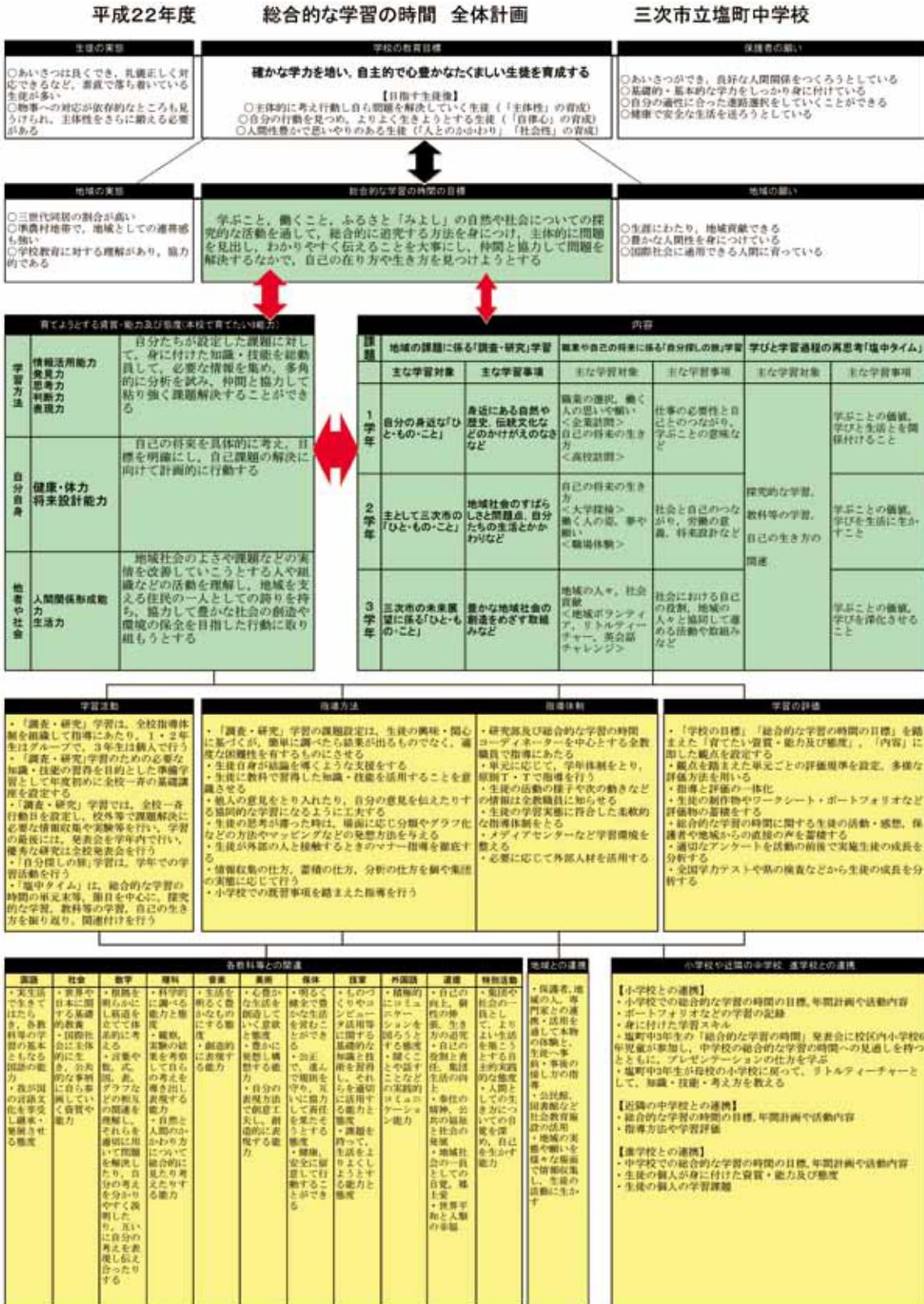
「PISA 型学力の育成」を目指すため、「情報の取り出し、解釈、熟考・評価」の過程で生徒が思考する授業研究を進めている。

指導力向上のための研修システムとして、外部講師を招聘したオープン参加のワークショップ型研修を年5回実施し、その研究の

まとめを発信している。

平成19年に完成した教科教室型の新校舎は、生徒の主体的な学習活動や学習相談活動を容易にしている。

総合的な学習の時間の指導体制は、T・Tで行い、生徒の学習状況を職員間で交流し、改善を加えながら指導している。



## 総合的な学習の時間の実践事例

### 第2学年 単元名「調査・研究」学習

#### 1. 年間指導計画

「調査・研究」学習の単元は、5月から11月までの期間に集中させ、柔軟に40時間かけて行う。事前に「調査・研究」学習のための基礎講座を行い、引き続いて地域にある「ひと・もの・こと」について自分にかかわりのある課題をグループで探究し、事後にその過程をまとめ発表する。全校での一斉活動日を9月後半に設定し、三次市内の広範な情報を収集する。この体験活動で、探究の方法や自分の将来展望、自分と社会とのつながり、地域社会の発展等について学び、これからの社会を生きていく展望を生徒にもたせることを期待する。

2年生「調査・研究」学習 地域社会のすばらしさと問題点、自分たちの生活とのかかわりをさぐる																																			
4				5				6				7				8				9				10				11				12			
1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
7							23																	10											
総合講座							課題の設定・情報の収集・整理・分析																	まとめ・発表											
◇「調査・研究」に必要な教科の範疇になり知識や方法を身に付けさせる。 ○全校オリエンテーション(1)[1] ○研究概論講座[1] ○パソコン講座[1] ○マナー講座[1]○電話対応講座[1] ○インタビュー講座(新聞記者に学ぶ)[2] ※ ワークシートへの記録をさせる。							◇三次の「ひと・もの・こと」について、自分にかかわりのある横断的な課題を設定させ、グループにより主体的協同的に探究の過程に沿って課題を追究させる。 ○課題の設定(グループ決定・テーマ設定・仮説の設定・学習計画)[5] ○情報収集[6] ○一斉活動日(三次市内に出かけ、追究に必要な情報を収集)9月後半[5] ○整理・分析[7] ※ 研究課題の領域は、「自然」「キャリア」「社会」「総合」とする。 ※ ワークシートへの記録と資料等のファイリングを細かくさせる。																	◇自分たちの課題追究の過程やそこから導き出された考えをプレゼンテーションさせ、相互評価・自己評価を行う。 ※仮説との関係でまとめさせる。 ※発表の方法は、プレゼンテーションソフトを用いる。 ※評価規準に沿った相互評価、自己評価を行わせる。 ※教師は、3年時の個人研究を念頭に置いた評価をする。											

#### 2. 単元計画

##### (1) 単元設定の理由

霧の里に代表される豊かな自然や古墳群などの歴史的遺産、現役プロ野球選手や中村憲吉など著名な人々を輩出する三次市。また、地域性を生かした農産物や鶏飼いななどの観光・地場産業、それにかかわる人々の姿やそこにある課題。このような多様で魅力的な素材を生かし、身の回りや地域に目を向け、そこにある自分にかかわりのある切実な課題を主体的に追究させることにより、自己の在り方や生き方を見つけさせたいと考え、この単元を構想した。

##### (2) 単元の目標

主として三次市の「ひと・もの・こと」を通して、地域社会のすばらしさと問題点、自分たちの生活とのかかわりなど学ばせ、探究の過程や課題設定に応じた解決方法を協同的に身に付けたり、自分自身の将来のことや地域社会の課題を見つけ解決しようとしたりする。

##### (3) 単元の評価規準

評価の観点	ア学習方法に関すること	イ自分自身に関すること	ウ地域社会のすばらしさと問題点に関すること
評価規準	仲間と協力して、探究的な課題の解決が探究の過程に沿って適切に行っている。	課題解決を通じ、地域社会と自分の将来とのかかわりを考えている。	地域社会のすばらしさや問題点を見つけ、自分の役割と結びつけている。
能力との関連	【情報活用能力】 【発見力】 【思考力】 【判断力】 【表現力】	【将来設計能力】 【健康・体力】	【人間関係形成能力】 【生活力】

(4) 単元の指導計画

平成 22 年度 三次市立塩町中学校 総合的な学習の時間 第 2 学年 単元計画

単元名

「調査・研究」学習

単元目標

主として三次市の「ひと・もの・こと」を通して、地域社会のすばらしさと問題点、自分たちの生活とのかかわりなどを学ばせ、探究の過程や課題設定に応じた解決方法を協同的に身につけたり、自分自身の将来のことや地域社会の課題を見つけ解決しようとする。

単元の評価規準

評価の観点	ア学習方法に関すること	イ自分自身に関すること	ウ他者や社会とのかかわりに関すること
評価規準	仲間と協力して、探究的な課題の解決が探究の過程に沿って適切にできる。	課題解決を通じ、地域社会と自分の将来とのかかわりを考えることができる。	地域社会のすばらしさや問題点を見つけ、自分の役割と結びつけて考えることができる。
能力との関連	【情報活用能力】【発見力】 【思考力】【判断力】【表現力】	【将来設計能力】 【健康・体力】	【人間関係形成能力】 【生活力】

指導計画・評価計画

学習過程	時数	活動内容	指導のポイント	評価方法
総合講座				
「調査・研究」学習の進め方(全校オリエンテーション)	1	「調査・研究」学習の目的	「総合的な学習の時間」の目的、「調査・研究」学習の目的を理解させ、これからの研究に意欲を持たせるため、先輩の優れた研究や理想型を事例として取り上げながら、教師がプレゼンを行う。その際、生徒にはしっかりメモをとらせながら構想イメージを持たせる。	ワークシート
「調査・研究」学習の概論講座(学年別ガイダンス)	1	テーマ設定の仕方	身のまわりの課題を、過去の学習体験や既習スキルを用いてテーマを設定しようとする姿勢及びマッピングなどの方法をワークショップ型で指導する。	ワークシート
パソコン講座	1	パソコンの有効利用	「調査・研究」学習のまとめ・発表場面を想定し、プレゼンソフトの利便性や使い方を中心に指導する。	ワークシート
マナー講座	1	適切な対話	あいさつやマナーの大切さや相手の気持ちを意識して、具体的な場面を想定して適切な対話の仕方をペアワークを用い指導する。	ワークシート 行動観察
電話対応講座	1	適切な電話	相手の気持ちを意識して、具体的な場面を想定して適切な対話の仕方をペアワークを用い指導する。	ワークシート 行動観察
質問・インタビュー講座	2	新聞記者に学ぶ	対象の人に対して、課題解決に必要な情報を集める方法や記事の仕方の具体について指導する。事前に新聞記者と総合的な学習の時間の目的等について連携をとる。事前に生徒に質問内容、質問者、ワークシートへの記録について指導しておく。	ワークシート 行動観察
自らの探究				
課題の設定	5	自分の身近な「ひとものこと」に関して横断的な課題を設定	1年生時の新たな課題や他単元や教科などの学習体験活動の中で疑問に思うことから課題意識を持たせ、適切なテーマ設定、仮説設定ができるように指導する。マッピングなどのスキルを用い、課題の想起のさせ方を工夫したり、生徒との対話・相談活動をしっかりとする。生徒が設定するテーマは、すべて生徒まかせにするのではなく、横断的探究的、自分とのかかわりがある内容が学年内で随時十分検討する。テーマ設定の手順は、「自然」「社会」「キャリア」「総合」の領域を基本として、まず個人設定し、類似した課題の3名から5名のグループをつくる。以後、グループ内でしっかり話し合いをさせる。発表までの活動計画を、生徒に立てさせる。	ワークシート 行動観察
情報の収集(一斉活動日を含む)	11	テーマに応じた情報収集	グループの研究課題に対して、予想と関連した視点で情報を集めることができるように、教科や基礎講座で学習したことを想起させる。対象の人に対して、課題解決に必要な視点で質問をすることができるように、マナー講座や電話対応講座で学んだことを思い出させ指導する。必要な情報を細かくメモしたり感想を書かせたり写真を撮ったりして、ファイルングし記録し蓄積させる。「一斉活動日」では、安全に十分気をつけさせ、時間・場所をはっきりさせる。	ワークシート 行動観察
整理・分析	7	課題に基づいた適切な整理	得た情報を、テーマや仮説との関係で、グラフ化、地図化、統計化したり、比較し種類ごと分けたり関連させたりさせる。教科で学習した技能を使うよう指導する。持ち合わせていなかったら具体的に教える。	ワークシート 行動観察
まとめ・表現	10	「調査・研究」学習の総まとめ	目的、意図に応じてまとめ、相手の意識に応じて効果的な伝達方法を考え、プレゼンソフトを利用しグループ毎にわかりやすく表現させる。また新たな課題にも注目させる。協同的な学習になっていたか、学習の仕方は身に付いたか、自分の将来を考えていたか、地域社会と自分とのかかわりに目を向けていたかについて、評価する。振り返りも含め「調査・研究」学習の総まとめで塩中タイムにつなげる。相互評価を行い「調査・研究」学習を通しての成長を確かめさせる。	発表の様子 相互評価 自己評価 (塩中カード)

塩中タイム

一斉活動日後の振り返り	1	一斉活動日の振り返り	情報収集活動「一斉活動日」において、どんな内容を学んで、どんな能力が向上したかを生徒自身に振り返りさせる。「一斉活動日」が活動できたのは、教科のどんな学習が役に立ったのかを考えさせる。さらにどんな学習が自分に必要なか考えさせる。	塩中カード 塩中ノート 生徒発表
発表後の振り返り	1	「調査・研究」学習で学んだこと	「調査・研究」学習において、どんな内容を学んで、どんな能力が向上したかを生徒自身に振り返りさせる。「調査・研究」学習において、どの教科のどんな学習が役に立ったのか考えさせる。さらに自分の将来にどんな学習が自分に必要なか考えさせる。	塩中カード 塩中ノート 生徒発表

第 5 章



研究の方法  
 研究の計画  
 まとめ・発表の方法

(6) 「一斉活動日」

情報収集日として全校生徒による「一斉活動日」を設け、指導を職員全身体制で行う。

170名の生徒全員が、おのおのの学習計画に従い、三次市内に一斉に繰り出し、専門家や目的に応じた人々に会うなど、地域の情報収集を行う。情報は、当初の収集計画の内容のみならず、現地に

行って初めてわかったことや驚きや感動など感覚的な要素も



ぶどう園で聞き取りをする生徒

り記録することを指導している。

(7) 整理・分析

集めた情報を、テーマや見通し・仮説との整合性で分析する。数値的なデータは集計し、さらにグラフ化や地図に記入したり、他地域と比較したりする。

写真や印刷物等の情報も有効に使いながら、自分たちが考えた仮説との整合性で検証・考察をしている。

(8) まとめ・表現

6ヶ月にわたる「調査・研究」学習の過程や研究成果をグループごとにまとめ・プレゼンテーションソフトを用い発表し、学び合う。

その際、発表者は聞く相手の意識を考え、効果的な分かりやすい発表をするように生徒の発表場面に指導した。



生徒の発表の1場面

また、相互評価表を用いながら、

自分たちの「調査・研究」学習を振り返り、生徒自身の成長に気付かせることで自信を深め、次の学習につなげていくことも大切にしている。

生徒の相互評価項目 (A・B・C)
グループ全員の役割分担がされ、協力していた。
聞き手のことを考えた分かりやすい説明が工夫されていた。
質問や意見に対し、自分たちの考えを適切に述べていた。
「次にしたいこと」をはっきり述べている。

(9) 自己評価活動「塩中タイム」

「塩中タイム」の主たる学習は、「単元を終えて自分にどんな力がついたのか」「それは、教科で学習した何が生きてきたのか、関連があるのか」「さらに力を伸ばすにはどうしたらよいか」等を生徒自身が振り返り、学習した価値や自分の課題を9つの能力にあてはめてまとめていく学習である。塩中ノートは、ポートフォリオの役割を果たし、生徒はこの学習により自己の学びをメタ認知することができる。

塩中ノートの記述には、「テーマを設定し、仮説を立て検証し、結果から考えたり新たな課題を見つけたりして自分の考えを提言した。また、他の人の発表を聞き意見を考えた。すべてのことを色々な視点で考え、比較してたくさんの思考力をつかった。意見交流することで自分の研究をより深くでき、自分の生活を見直せてすごく楽しくためになりました。」等も見受けられる。



学習の振り返りをカードに記入する

(10) おわりに

塩町中学校では、1年生から3年生まで学年の段階に応じて「調査・研究」学習を行う。1・2年生はグループで、3年生は個人で研究を行う。生徒の研究テーマは84通りにのぼる。指

導にあっては、職員の縦横の連携、目標の共有化、細かな単元計画、単元の配列の集中化等の指導体制に留意した。

今後も、目標の実現を目指し、単元計画を改善しつつ、生徒の「生きる力」につながる充実した活動を行っていきたい。



中学校編作成協力者（五十音順）

江 間 史 明	山形大学教授
小 川 聖 子	埼玉県加須市立元和小学校教頭
久 野 弘 幸	愛知教育大学准教授
久保田 智恵美	新潟県上越市安塚中学校教頭
田 中 稔	杉並区立済美教育センター統括指導主事
中 澤 美 明	北海道教育委員会主査
奈 須 正 裕	上智大学教授
原 田 信 之	岐阜大学准教授
松 本 謙 一	富山大学教授、富山大学人間発達科学部附属幼稚園長
村 川 雅 弘	鳴門教育大学大学院教授

（職名は平成22年6月末日現在）

中学校編ワーキンググループ委員（五十音順）

尾 崎 誠	横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉中学校教諭
狩 山 敏 宏	広島県三次市立塩町中学校教諭
北 林 克 彦	宮崎県教育委員会指導主事
向 後 健 一	埼玉県羽生市立南中学校教諭
金 隆 子	山形県米沢市立第二中学校教諭
藤 中 大 洋	川崎市総合教育センター指導主事
武 藤 篤 美	埼玉県坂戸市立北坂戸中学校教頭

（職名は平成22年6月末日現在）

なお、文部科学省においては、次の者が本書の編集に当たった。

平 林 正 吉	初等中等教育局教育課程課長
宮 崎 活 志	初等中等教育局視学官
山 田 素 子	初等中等教育局教育課程課学校教育官
田 村 学	初等中等教育局教育課程課教科調査官

